

関連項目：教育活動プラン①

「花さき山活動」を通して自尊感情を高める

目的

本校ではこの数年間、不登校もいじめも発生しておりません。しかしながら、自信を持って積極的に行動できる子が少ないという傾向が見受けられ、観察やアンケートから自尊感情の低い児童が数名いることが課題の一つとなっています。『自分を大切にできてこそ、人にも優しくできる』との考えのもと、自尊感情を高めることを重点課題として取り組むことにしました。

内容

● 「花さき山活動」の実施

友だちの言動のよいところを見つけ合ってカードに書き、それを花に見たて、教室の壁面に作った木に貼って花を咲かせていくという活動です。帰りの会などで紹介し合っています。

カードを書く時には「ふわふわことば」を使うよう呼びかけています。「ふわふわことば」は、『だいじょうぶ?』『いっしょに遊ぼう』など相手を思いやった温かいことばのことで、「とげとげことば」に相對するものです。

さらに、各学期に設定している「えがお月間」の2月の取り組みでは全校的な「花さき山活動」を行い、他の学年の友だちのよい言動を紹介し合っています。紹介された子も紹介した子もうれしそうです。この時は教師も参加し、学校中にえがおが広がっています。



《 花さき山 (6年2学期) 》

● 全員の「花さき山活動」を見つける「ひみつの友だち」の取り組み

「花さき山活動」を発展させたのが「ひみつの友だち」で、「えがお月間」の取り組みの一つです。学級の中でひみつの友だちを一人決め、誰にも知られないように観察してその友だちのよかった言動を毎日カードに記録していきます。そして、10日後にことばを添えて本人に渡すというものです。誰がひみつの友だちなのかは本人にも他の子にもひみつです。知っているのは観察者と教師だけです。数日間じっくりと観察するので、いろいろな場面で友だちのよいところを見つけることができます。



《 ひみつの友だち 》

観察者は、どの子にもよいところがたくさんあることに気づくとともに、自分自身も自分が気づかなかった長所を見つけてもらい、友だちも自分自身も大事にするようになってきました。

● 「花さき山活動」の精神を生かした職員会における情報交換の改善

毎月の職員会でやっている情報交換を、「花さき山活動」からヒントを得て、児童の問題行動についてだけでなく、よい言動についても行うことにしました。その結果、「全職員で全児童を見守る」「子どもをほめて伸ばす」という本校の教育方針をより具現化できるようになりました。

子どもを叱らなければならない場面でも、その子のよかった言動を思い浮かべることによって教師の心にゆとりが生じ、「・・・ができた〇〇さんなのだから・・・」と愛情のこもった叱り方ができるようになりました。

成果

学期ごとに実施している「えがおいっぱい为学校にするために」のアンケートで、『学校が楽しい』と答えた児童が、2学期はほとんどになりました。「花さき山活動」によって自尊感情が高められたことが大きな要因だろうと考えています。

今後、全員が『学校が楽しい』『楽しいことが多い』となることを目指してこれらの活動を継続したいと考えています。